

施策4-2
【都市整備部】

	答申より	担当
1	<p>【バスの路線(ニーズに沿った公共交通)】 満足している市民の割合が基準値から著しく低下している現状は看過できない。特に、コミュニティバスにおいて、各地域同士をつなぐ路線がないことは気になる。コロナ禍や運転士不足などの様々な要因に伴う減便、路線再編などを総合的に勘案してほしい。</p>	<p>路線見直しにつきましては、日々の乗降実績や意見交換会におけるご意見、また外的要因としての民間路線の廃止等を踏まえ、適時適切に実施しているところです。直近では令和7年10月にミニバスの路線改正と勝浦地区における乗合タクシーの新規運行を行いました。これらが市民ニーズに沿っているとは必ずしも思っていませんが、今後も市民の皆様のご意見を聞かせていただきながら、よりよい公共交通体系の構築に努めたいと考えています。</p>
2	<p>【公共交通の今後の在り方】 現行の民間バス事業者が撤退する可能性も視野に、学校・病院等との共同運行や広域連携などもシミュレーションしておいた方が良い。財政負担とのバランスも考慮しながら、他自治体事例・市民ニーズを把握し、「暮らしやすさの向上」「利用者増」につながる対策を。</p>	<p>令和7年10月からの福津市地域公共交通計画では、交通機関同士の連携や企業、地域コミュニティ、近隣市町との連携を掲げ、これらを推進していくこととしています。経費負担が増える施策の実現は、現状では困難ですが、国の動向も注視しつつ実現できるものから着手できればと考えています。</p>
3	<p>【道路補修等の対応】 道路補修等の要望について、安全・安心を確保するための優先度付けが必要。加えて、道路の修繕や冠水箇所などについても、早期発見を行うような仕組み(特にDX)が必要と考える。他自治体例も参考にしつつ、市の状況・職員体制に合わせた方法を検討してほしい。</p>	<p>限られた予算配分の中、緊急性を軸とした優先度を付けながら、補修などにあたっています。DXの関係では、現在国土交通省が導入しているLINEによる通報の仕組みを活用しています。他自治体では様々な手法で早期発見のための仕組みが導入されていますので、今後も情報を入手しながら、市の状況なども考慮して検討を続けます。道路冠水の発見については、現在市内で過去に発生した箇所を中心に浸水センサーの設置を実施しています。</p>
4	<p>【渋滞等への対策】 シェアサイクルなどの代替手段の活用も視野に、根本的な渋滞解消に向けた対策が必要では。</p>	<p>シェアサイクルについては、観光施策の一環として(一社)ふくつ観光協会がレンタサイクル事業を実施しております。一方で、福津市地域公共交通計画では、観光施策との連携として観光チラシやパンフレット、ホームページ等で公共交通機関の利用勧奨を進めていくこととしています。</p>
5	<p>【市道等の除草作業などの市民活動】 コミュニティスクールとの連携や、共働人口(定住していないが関係人口より踏み込む)の観点から「手伝ってほしいことを具体化し発信」してはどうか。</p>	<p>コミュニティスクールとの連携などは、これからのアクションとなります。また、具体的な発信については、発信の方法検討や関係する部局との協議などを経ながら、考えていきたい。</p>
6	<p>【全体を通して】 農村部は今後、生活基盤の消滅危機に陥る可能性がある。施策4-2の関連事業の多くは地図に落とし込めることから、DXを活用した図式化によって、全市的・個別の課題イメージが共有しやすくなる。市民啓発の観点からも検討してほしい。</p>	<p>農村集落の消滅危機に関し、公共交通の分野では、渡地区における”田ノ浦集落”及び”池尻集落”へ令和6年4月から新たにバス停を設け、利便性の向上を図っています。今後においても市民ニーズに応じた路線再編を図っていきたいと考えています。</p>